

# 序

高齢者の急増に伴い、総合病院でも高齢入院患者の診療にあたるケースが増えています。そのためせん妄への対応に戸惑う医療従事者の方から相談を受ける機会が増えてきました。

せん妄は、入院患者の20%に合併するほど一般的にみられる、総合病院で最も多く認められる精神科の病態です。背景に身体疾患があり、身体治療と精神科治療の両面が必要になるのですが、身体治療の必要性が十分に認識されていなかったり、適切な向精神薬の選択方法が知られていないために、せん妄が重篤化し、結果として身体治療も行えなくなるケースがあります。今後、在院日数の短縮と在宅復帰率の向上が求められるなか、的確なせん妄への対応方法はますます重要になりますが、ともするとせん妄に関する情報は認知症と混同され、抗精神病薬の投与にとどまったり、逆に看護ケアだけに留まり、系統立てて知る機会が非常に少ないのが現状です。

私は、緩和ケアに関する研修会や、コンサルテーション・リエゾン精神科に関する活動を通して、せん妄への対応について解説をする機会をいただいています。そのなかで、せん妄に関して系統立てて聞く機会が少ないこと、特に診断について触れる機会がないとの意見をいただけてきました。

そこで、今回せん妄について、その背景となる身体疾患から診断、治療の組み立て、評価まで、身体治療と精神科治療の両面にわたり解説をする機会をいただき、本書を執筆することとなりました。特に、総合病院で病棟担当医として第一線を担う内科・外科の研修医・レジデントの先生を意識し、全身評価と身体治療と精神科治療の連携を丁寧に説明することを心掛けました。本書が患者さんと先生方の安心につながることを願っています。また、本書の執筆を強く勧めてくださいました羊土社の保坂早苗さん、そして本当に丁寧に編集をしてくださいました鈴木美奈子さんに篤く御礼申し上げます。お二人のお力なくして本書はできませんでした。

2014年9月

国立がん研究センター東病院 精神腫瘍科  
小川朝生